



新名古屋火力発電所地域共生施設 サニーハウス

Nagoya-city Aichi 2002

< ウォーターフロントのシンボル施設 >
< 公園の中のレストラン >

敷地：愛知県名古屋市港区潮見町42番地

発注：中部電力㈱

用途：展示イベントホール、レストハウス

設計：1999. 4～2000. 7

工期：2000.11～2001.12

建築面積：501.12㎡

延床面積：696.50㎡

日経アーキテクチャ：2002年4-29号掲載

近代建築：2002年5月号掲載

中部電力は創立50周年記念事業の一環としてワイルドフラワーをテーマとした庭園を名古屋港のウォーターフロントに計画した。

海からのシルエット

サニーハウスは庭園の中で最も水際線近くに位置し、前面が水上バスの発着桟橋となることから海からの玄関として位置付けられる。周りがある工場地帯特有の重厚でマッシブな建物と対比させる意味でも曲線的で動きのある屋根を、ガラスカーテンウォールの上に浮遊するように置き、特徴あるスカイラインをつくった。このシルエットが鳥の飛翔する姿や波、あるいは風にはらむヨットの帆など多様な連想をもたらすことで、訪れる人の心に強く印象付けられることを意図している。また海から来る人を視覚的に庭園に誘い込むように水際に沿った壁面は護岸と60度の角度をなすように庭園側に向かって折れ曲がっている。その結果生まれるスペースをカフェの外部テラスとしている。



市民が港に親しむシンボル

市街地側から見るとサニーハウスは時間によりその表情を大きく変える。昼間はステンレス葺きの屋根が輝き、空と建物の境界部が特徴的なスカイラインを作り出す。夕方以降は全体のシルエットは消え、逆にアール状の白い天井からの反射光でアトリウムの内部空間が浮かび上がる。

市街地からも見えるサニーハウスのシルエットがウォーターフロントをさらに市民に親しまれるものとしていくささやかなきっかけとなってくれることを願っている。

アトリウム

建物全体は鉄骨造であるが外周部を巡るギャラリー状の通路はRC造のフレームに支持されている。そのRCフレームを耐風要素として利用しながら外側へ5度傾いたカーテンウォールがアトリウムの外周壁を構成している。カーテンウォールは水平の耐風梁を背後にもつタイプと縦綫・7鉄骨トラスで風圧を受けるタイプの組み合わせとなっており、後者のタイプの無目には見込み220のフィンを付け陰影のある表情を作り出している。

